議題３：液体ミルクの備蓄状況等について（小牧市提出）

資料３

市名	回答 （１）液体ミルクの備蓄状況や検討状況について
名古屋市	液体ミルクについては、水がない環境でも使用できるという面で、過去の災害においても重宝されており、災害時には有用なものであると認識しています。 しかし、液体ミルクは、粉ミルクと比べて「賞味期限が半年～1年程度と短いこと」や「常温を超えない温度での保管が必要」など、コスト面や乳幼児に安心して飲ませられるような品質管理の面において指摘がされています。 液体ミルクについて国内での販売が開始されたため、それを踏まえて、取扱事業者と供給にかかる協定を締結するなど、新鮮な液体ミルクが、必要とする市民に少しでも早く行き渡るための取組を進めていきたいと考えています。
豊橋市	現在は、液体ミルクの備蓄はしておりません。これは、貴市の要旨に記載されているように、液体ミルクの販売が認可直後であること、また、適正な利用方法が浸透していないことから、要検討事項であると認識しております。
岡崎市	備蓄状況：なし。 検討状況：液体ミルクは、賞味期限が短くコスト面も含め備蓄効率が悪いこと、飲み残しは雑菌が繁殖するため処分する必要があり、利用効率が悪いことなどの課題によって直ちの採用は行わないこととした。ただし、災害時の環境下では、メリットのあるものであるため、防災出前講座やガイドブックへの掲載などで家庭内備蓄について周知を図ることとした。
一宮市	開封後は飲みきる必要があることや、消費期限の短さなどの課題が多いことから、 市の備蓄品としての導入は見送っている状況です。 そのため、液体ミルクについては各戸での備蓄を推奨しています。
瀬戸市	現在、アレルギー対応の粉ミルクのみを備蓄しています。液体ミルクはアレルギー対応していない、高温になるところに保管できない、備蓄期間が粉ミルクに比べ短いことから、検討していません。
半田市	今年度より液体ミルクの備蓄を行う予定。 ローリングストック方式により、想定避難乳児数×３日分の備蓄を検討中。
春日井市	当市においては、現在液体ミルクではなく、粉ミルクを備蓄しています。液体ミルクについては、粉ミルクに比べて高額であることや、保存期限が１年未満であること、また保管場所等の観点から、導入には至っておりません。今後は、他市の備蓄状況等を参考としながら、導入について検討を行う予定です。
豊川市	本市では、南海トラフ地震の被害想定を基に粉ミルク（通常タイプ及びアレルギー対応）の備蓄をしております。 液体ミルクについては、賞味期限が最長でも製造日から１年と短く、常温（１５℃～２５℃）で保存、価格も粉ミルクの２倍以上となっており、衛生面や価格の面から備蓄をしておりません。 現時点では、防災講話の際、備蓄品の話の中で、液体ミルクの紹介をする程度となっております。 先だっての決算審査の際、監査委員から、液体ミルクの備蓄について検討してみてはどうかという指摘があったところです。
津島市	本市も液体ミルクの備蓄について注目しており、衛生面やコスト面、納入スペース等の課題の他、賞味期限が短く納入時点で１年を切っていることから年２回の購入を考えなければならないことを課題として考えている。しかし、液体ミルクは粉ミルクとは違い、水が不要であり、水を沸かすための火力も不要という利点があげられる。 そのため、現在は粉ミルクのみを備蓄しているが、上記の課題を考慮しながら粉ミルクと液体ミルクの両方の備蓄を考えていく。
碧南市	液体ミルクの備蓄は現在ありません。また、今後の導入予定もありません。

市名	回答 （１）液体ミルクの備蓄状況や検討状況について
刈　谷　市	本市においては、メーカー等から情報を収集していますが、保管場所の問題などから、現時点で導入の予定はありません。
豊　田　市	現在は、粉ミルクのみで対応している。保存期間が半年～１年と短く、また価格も約２倍となるため災害用備蓄としてすぐに全てを切り替えることは考えていない。もう少し市場の動向と課題を整理した上で、検討していく。
安　城　市	本市においても液体ミルクの検討は行っていますが、粉ミルクに比べ高額になることや保存期間が１年間であること、保存方法も高温にならない冷暗所での保存が必要なことから、今のところ購入予定はありません。
西　尾　市	現在当市では粉ミルクの備蓄を行っており、液体ミルクは備蓄をしておりません。 しかし、発災直後には煮沸殺菌を行い冷ますという行為が困難であることから、液体ミルクの備蓄について検討をしております。
蒲　郡　市	現在、蒲郡市では粉ミルクを災害時の備蓄品としており、液体ミルクの備蓄は行っておりません。 高温下に置かないこと、期限が切れていないか・破損をしていないか確認すること、開封後はすぐに使用し飲み残しは使用しないこと等注意点が多く、現在販売されている製品については賞味期限が半年から１年と短いため、毎年入れ替えが必要となること等の問題もあるため、情報収集を進め、課題を整理している段階です。
犬　山　市	本市では、今年度内に液体ミルクを購入する予定です。 ただし、明確な目標値を設定した上で購入・備蓄を進めるのではなく、今年度は試験的に購入し、保存の仕方や備蓄スペースの確認をした上で、来年度以降備蓄計画に盛り込むか判断します。 備蓄先としては、乳幼児が避難してくることが想定される「福祉避難所」を対象として備蓄を進めていく方針です。
常　滑　市	液体ミルク・粉ミルクのどちらも備蓄対象としておらず、現時点では新たに備蓄する予定はありません
江　南　市	市で備蓄する予定はなし。災害時は協定先から確保することを計画している。
小　牧　市	本年、試験的に少数ロットの備蓄を行う予定。 次年度以降、備蓄整備計画の見直しを行い、液体ミルクの備蓄を拡大する予定。
稲　沢　市	検討中。
新　城　市	今のところよていなし。
東　海　市	アレルギー対応でないこと、消費期限が短い上に、高価であることから、現在は、備蓄していないが、すでに備蓄を始めた市もあるため、引き続き先進地や商品の動向を注視しながら、調査研究していく。
大　府　市	液体ミルクの容器が哺乳瓶と一体化する等、備蓄品として利便性が向上するような場合は、確保に努めたいものと考えています。
知　多　市	液体ミルクは、備蓄していません。 粉ミルクと比較した場合のメリット・デメリットを確認し、備蓄食糧に液体ミルクが使用可能か検討しています。
知　立　市	試験的に購入し検討したが、認知度やコスト（費用・賞味期限が半年～１年）面を考え、現時点で備蓄する予定はない。

市名	回答 （１）液体ミルクの備蓄状況や検討状況について
尾張旭市	本市においては、現在液体ミルクの備蓄は行っておりませんが、今年度中に導入について検討する予定です。 導入するか否かは、液体ミルクの必要数・保管場所・廃棄方法等を基にして検討していきたいと考えております。
高浜市	現状、液体ミルクの備蓄はしていない。 備蓄場所が限られてしまうことや備蓄可能な期限が短いことから、今後備蓄を行うかについては検討中。
岩倉市	液体ミルクは粉ミルクと比べると消費期限が短く、単価が高い点があげられます。また、一度空けてしまうと飲み切らなければならず、正しい飲み方について、市民周知を徹底する必要があるため、当市では現時点で購入する予定はありません。 今後、消費期限や価格について改善がされれば、改めて購入を検討することになると思われますが、それまでは各家庭での備蓄を推奨していくことを予定しています。
豊明市	備蓄は保有していないが、災害協定により緊急時に提供いただく予定。
日進市	現在、液体ミルクの備蓄はありません。今後、保育園等と相談しながら検討していく。
田原市	現在、今後の備蓄計画は予定はありません。
愛西市	液体ミルクは消費期限が短く場所をとるため備蓄はしていない。今後も予定はない。
清須市	粉ミルクと比して倍近い価格となることから、備蓄品として採用が困難であるため、現在、具体的な備蓄予定はありません。
北名古屋市	現在、液体ミルクの備蓄は無く、本年度の購入予定もない。来年度以降の購入については、現在検討中。
弥富市	現在は備蓄なし。来年度も備蓄の計画はないが、市民への周知目的（乳児健診や防災に出前講座）で少量を購入する予定。
みよし市	現状、液体ミルクの備蓄はありません。 また、災害時においては、衛生的にミルクを供給できる手段ではありますが、粉ミルクに比べ費用が割高であり、保管場所のスペース、温度管理の課題もあるため、今後の購入については決まっておりません。
あま市	東日本大震災や熊本地震では、海外製の液体ミルクが重宝したことは認識しているが、粉ミルクと比較すると、賞味期限が短いうえ、販売価格が高いため、他市町村の状況等を踏まえて備蓄を検討していく。
長久手市	検討はしているが、粉ミルクと比べ高額であること、衛生的なリスクも考えられることからまだ備蓄を行っていない。